

# Tokion

The First  
Glocal  
Magazine

トキオン・ジャパン

1

no.55

550yen

東京 ロンドン ニューヨーク  
デザインの未来は変えられる。

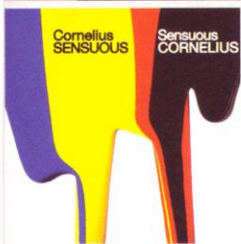
LIFESTYLE 建築家 松原 慈

SPECIAL クリスマスに贈る、洗練のギフトセレクション

FEATURE ビームス30周年 ブルース・ラブレース×鳥肌実「禁断のコラボレーション」

MODE ディオール オム/コム デギャルソン・パルファム パルファム

連載 コレット・ミーツ・トキオン



「SENSUOUS」  
コーネリアス  
(ワーナー  
ミュージック・  
ジャパン)  
¥2,940

SWEET」をふと思い出してしまった。いま聞くとさすがに幼稚に聞こえるが、音を平面でなく立体的に捉えていく考え方がその時代には斬新であったものだ。

このアルバムの苦言を敢えて言うならば、シングルを聞いた時も思ったのだがアルバムの6曲目に収録されている「GUM」がスカイラブの「BITE THIS!」にあまりにも似ているような気がするのである。思わずスカイラブのインチシングルを聞き直してしまった。微妙でありますね。

しかしそんなことすら色褪せてしまうのは、シングルの最後に収録されている曲だ。彼流のアコギでの国歌マッシュアップといえは良いのだろうか。アルバムでは微妙に7曲目の「SCUM」で断片的にカットアップされているが、こういったところに彼の天才的な閃きを感じる。

ともかくにもこれは只の音楽アルバムでの範疇を超えており芸術作品のひとつである。

Art

Text: MISAKO ROSEN  
ローゼン美沙子 ギャラリスト  
1976年東京生まれ。小山登美夫ギャラリーの発足当時よりスタッフとして携わる。12月に自身のギャラリー「Misako & Rosen」をオープン予定。

## 「全部消えちゃったよ！」

江戸から東京へ、昭和から平成へ、戦前から戦後へ、こんなにも移り代わりがはげしい東京という街は意外と懐いところである。シンプルに考えてみると消え行くものだけがたくさんあるところなのかもしれない。東京下町生まれ、天才アラキーこと荒木経惟の東京の写真には戦後というひとつの時代が終わったということ、今も生き続ける東京という都市が愛するものを通

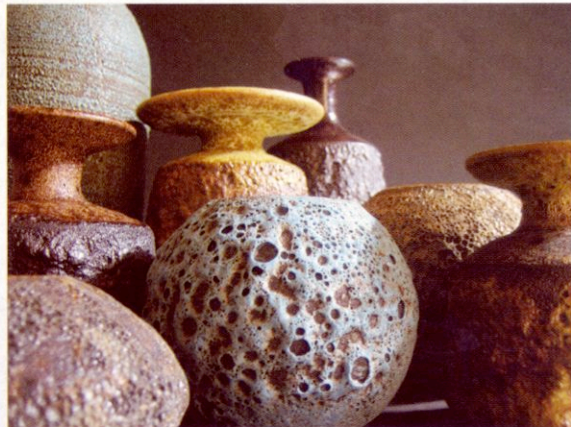
じて描かれている。「東京人生」には、荒木のルーツを知る上で欠かす事のできないイメージが600以上に及んで構成されている。それらのイメージを前にした我々鑑賞者にとって、アラキーの視点を探る旅でもある。60年代高度経済成長期、現在の団塊世代が日本を支えた時代のこと、銀座にはOLやらサラリーマンが溢れかえっていた。80年代バブル時代、ごった返す女たち。少し前までなんだか中途半端に古くていやだった風景も今はもうない。儂くもアラキーが語るように今はもうないものばかりだ。ノスタルジーを残すという行為が写真であると言うように、忘れてくない何かがあるところにはある。アラキーの人生を綴る写真、展覧会のタイトルさながら東京は荒木の人生なのだ。

ロサンゼルスを拠点にする陶芸アーティスト、アダム・シルヴァーマンは今年3度東京を訪れている。7月、シルヴァーマンは益子にいた。なじみ深い東京から離れ、ロサンゼルスのような都会では、実現できない新たな体験を

試みた。登り釜を使った本格的な制作である。丸一日おそらく5日間くらい釜との対話のみの時間である。そして秋、彼は TKG Editions での個展のため再び東京にいた。どこか未知なる星の生き物のようなフォルムを持ったシルヴァーマンの作品は、もはやデザインや陶芸というイメージを覆す。色を思いついた時シルヴァーマンは陶器の形を想像する。また形のアイデアが浮かんだ時それをどの色で表現するか緻密に計画を練るのだ。素焼きした土台に釉薬を塗っては焼いては磨く。これを何度も繰り返しようやく出来上がった作品の表面に施された色、または形は自然と共存する生きている彫刻のようである。Hyena や Green Lava と名付けているようにその有機的な姿はとにかく生きているように見えるのである。アダム・シルヴァーマンは大学で建築を学んだ後、'90年代にファッションブランド X-large のディレクターとして創立に携わり、ファッション界から離脱した後は陶芸家としてロス工房 Atwater Pottery にて制作している。



「荒木経惟-東京人生」は12月24日まで東京都江戸博物館、常設展示室5階第二企画展示室で開催中。  
問 03-3626-9974 (代表) 写真は「東京日記」1988、「写真私情主義」1991、「トキョービュー」2006 c Nobuyoshi Araki



アダム・シルヴァーマン新作展は11月4日で終了したが、現在も TKG Editions にて作品取り扱い中。問 03-5250-1561